

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-136	A-770	14-090
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
<b>題名（原題／訳）</b>		
Relationships between Diet, Alcohol Preference, and Heart Disease and Type 2 Diabetes among Americans. 米国において食事および飲酒が心疾患および2型糖尿病に及ぼす影響		
<b>執筆者</b>		
Adjemian MK, Volpe RJ, Adjemian J.		
<b>掲載誌</b>		
PLoS One. 2015 May 11;10(5):e0124351. doi: 10.1371/journal.pone.0124351.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
食事、飲酒、購買情報、心疾患、2型糖尿病、前向きコホート研究		4427330
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>            多量飲酒は死亡やさまざまな病気を引き起こすことが知られているが、中等度飲酒は心血管病や2型糖尿病のリスクを下げる可能性が示されている。しかし、過去の研究の多くは、飲酒および食事の情報をアンケートにより集めているので、思い出しバイアスの影響を受けている可能性がある。そこで、米国一般家庭を代表する前向きコホート研究において、食料およびアルコール飲料の正確な購買情報を用いて、食事および飲酒が疾患の発症に及ぼす影響を検討した。</p> <p><b>方法：</b>            米国 National Consumer Panel (NCP)では、米国の代表的な一般家庭を対象として、購買情報を正確に収集している。本研究では、2007-2010年におけるNCP参加者を対象とし、2010-2012年に心疾患および2型糖尿病の罹患・発症状況を調査した。評価項目は、2010年における心疾患および2型糖尿病の有病および2010-2012年における発症とした。</p> <p><b>結果：</b>            購買情報および評価項目のそろっていた49,377名を本研究の対象とした。他の交絡因子の影響を調整しても、中等量のワイン購入者における心疾患の有病率は、非購入者に比べ25%低かった。しかし、アルコール飲料購入状況は、心疾患の発症とは関連していなかった。一方、アルコール飲料非購入者に比べ、アルコール飲料購入者では2型糖尿病の有病率が低く、ワイン・ビールの多量購入者では2型糖尿病発症も少なかった。</p> <p><b>結論：</b>            アルコール飲料と心疾患発症との間には関連を認めなかったが、特定のアルコール飲料は2型糖尿病発症の減少と関連していた。</p>		